



下の水が突如として湧き出し、あるいは、海が傾き、器の水がぶち空けられるかのように瞬く間に地にみなぎったのでした。このように神が、ヨブに洪水のことを思い起こされたのは、悪者を地上から取り除くため洪水はじめ天災が下されるということ、祝福も災いもすべてが神の摂理の下で許されているということを知らしめるためでした。

続く節で、「あなたは生まれてこのかた、朝に命令し、あるいは、暁に場所を指定したことがあったか。地の両端をつかんで悪者をそこから振り落とすようにと。地は（円筒が転がされることによって粘土板に新たな印象が刻み付けられるように、住民が他の者たちに置き換えられるとき）、円筒状の印章で刻印を押された粘土のように形を変え、すべてが新たな衣服をまとったかのように特徴付けられるのです」（上述の邦訳の意訳）と語られたとき神は、ノアの洪水が、どのようにして引き起こされたのかにヒントを与えられました。すなわち、大洪水の原因を地軸の急変に起因するものとみなす学者たちによれば、神はヨブに、次のように問いかけられたと解釈できます。「地軸が回転することによって太陽が昇り、朝が巡って来るが、粘土の上を転がる円筒状の印章が新しい刻印を地に刻み込むように、私はノアの洪水のとき、悪者を振り落とすために、地軸を急激に移動させ、地を揺さぶり大洪水を引き起こし、太陽を違った所から上らせた。お前は朝をもたらす太陽に影響を与えるように、地球を動かすことができるか」と。バビロンでは、円筒状の印章の筒に差し込まれた軸の両端を持って、粘土の上を転がすことによって捺印したものでしたが、太陽は地球がこの印章のように地軸を中心に回転することによって昇り、洪水は地軸の急激な移動によって引き起こされたのでした。何らかの力が働いて地軸が大きく変化したことは、今日の地球の地理的な極（北極、南極）と、地磁気上の極とに食い違いがあることを説明し、また、ノアの洪水の前後で太陽の昇降する位置が変化するため、それ以降気候に大きな変化をもたらされたことを説明することにもなるのです。

科学の分野では比較的新しい「原始（旧）磁気学」が、洪水の原因に光明を与えることになったと言います。過去のある時点で地磁気の方角が大きく変化したことが発見され、この変化が洪水の原因に関連付けられたのです。過去の地球の磁極がどの方向にあったかを岩に記録されている磁気の方角から知ることができ、地球がかつて現在とは異なった地軸の回りを自転していたことが分かったのです（おそらく、現在の『地理学上の南北極』よりほぼ18度ずれている『磁気学上の南北の磁極』を通る軸の周りに回転していたと考えられています）。以前は同じ角度で回転していた地球の外殻と磁気を決定する内殻が急にずれて分離したことによる、殻の別行動が、地軸の変化を引き起こしたのでした。緩やかな地軸の変化は過去にも起こっていたようですが、18度ものずれを引き起こしたこの変化は、新石器時代から青銅器時代（紀元前7000～1500年）の間に、起こったと推定されているのです。この突然の地軸の変化で、かつて温暖だったシベリアー帯は新しい北極に接近し、突然極寒地と化し、瞬く間に地を覆った水はこれまた瞬く間に氷に変わり、万年氷河に覆われることになったのでした。平安なうちに草を食んでいた立ったままの巨象マンモスが、歯の間にまだ緑の咀嚼されていない葉をはさみ、胃には消化されていない、原型を留めた豆を残したまま一気に氷付けとなり、大氷河の下に何千年も眠らされることになったなぞは、地軸の急な変化というこの現象によって説明できるのです。死後の腐敗が始まる前に瞬間のうちに氷付けになったマンモスの新鮮な肉は今日もまだ食べられそうとのことです。マンモスのような巨大な動物を体内の細胞に結晶を形成させないで瞬時に凍結するには、少なくとも氷点下、華氏百五十度という条件下に置かれなければならないそうで、1901年以降相次いで発見されているマンモスの保存状態から、当時、突然の天変地異が起こったと考える地質学上の『激変説』によって以外説明のしようがないのです。

地軸の変化は赤道の位置にも変化をもたらし、当時は今日のアンデス山脈上を赤道が通っていたことが分かっており、今日は雪で覆われているアンデス山上の塩水をたたえたチチカカ湖近辺が、かつては熱帯性気候を横臥した港町だったことが、したがって、熱帯性文明の跡を残している理由を十分説明できるのです。今日の世界の高山岳地帯は、かつての赤道地帯であったと言います。詩篇104:5～9は、洪水後の地殻現象を描いていますが、「**山は上がり、谷は沈みました**」と、洪水後、高山が形成されたことを示唆しています。洪水前は、最も高い山でもせいぜい1800～2100mであったと推定されているようですが、神は山を押し上げ、反対に谷を引き下げることによって、全体のバランスを取り、洪水後の新しい変化に富んだ地形を造られたのでした。これは地学用語で、「**アイソスタシー（地殻均衡）**」、「**シンクライン（向斜・背斜）**」という現象なのです。地中の山底は山の地上に隆起している高さに応じて深くなっているようですが、このように地上と地下のバランスが取れるように地殻形成が成されている状態、高山の密度は小さく、深海底の密度は大きくそれらの重さが平衡している状態をアイソスタシーと言うのです。イザヤ40:12が語っているように、神は、山、谷、それぞれの高さ（重さ）に見合った地盤、地堅めを、私たちの目には見えない地中深くに供え、バランスを保つように支えておられるのです。また、かつて山だったところが谷になり、谷であったところが山になるという現象は、シンクラインと呼ばれていますが、山肌に刻まれた波形状の断層によって窺い知ることができます。かつての谷が地殻の横圧力によって山に変じたところの山頂はU字型になっているのです。イザヤは、「**すべての谷は埋め立てられ、すべての山や丘は低くなる。盛り上がった地は平地に、険しい地は平野となる**」（40:4）と、この摂理を語っていますが、自然現象の中に、大地に刻まれた模様は、神の御手の業を鮮やかに見ることができるのです。